古石ひでさと4期目に向かっての議会活動　ひでさと

古石 後援会だより

URL：http://古石.com/

第　３５６６号
発行令和３年２月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

医療関係者に接種本格化

イメージ回復期待

選手「多様性に光を」

選考過程に疑問の声

東京五輪・パラリンピック組織委員会の新会長に、夏、冬、男女合わせて7度の五輪に出場した橋本聖子氏が18日に就任したことに対し、北海道関係の選手や指導者からは「ホッとした」「最適の人選」などと歓迎の声が上がった。一方、女性蔑視発言で辞任した前会長の後任選びの過程に疑問の声も聞かれる。

橋本氏は18日の就任会見で、「夏季大会がうくり上げてきた大会をうくり上げてほしい」と訴える。

自転車マウンテンバイク女子東京五輪代表の山本幸奈選手（30）＝十勝管内鹿追町出身＝は「橋本氏が日本自転車競技連盟会長だった時代に支えがあり、アスリートの気持ちをくんでくれる人だと思う」と会長就任を歓迎。橋本氏を選んだ組織委の判断過程については「透明性が感じられない」と疑問を呈した。

ボート女子軽量級ダブルスカル代表の武田大志選手（29）＝帯広市出身＝は「コロナの影響で社会的な立場の弱い人が苦しい思いをしている」と指摘。「大会の理念に立ち返り、人間の多様性に光を当てる大会をつくり上げてほしい」と訴える。

自転車マウンテンバイク女子東京五輪代表の山本幸奈選手（30）＝十勝管内鹿追町出身＝は「橋本氏が日本自転車競技連盟会長だった時代に支えがあり、アスリートの気持ちをくんでくれる人だと思う」と会長就任を歓迎。橋本氏を選んだ組織委の判断過程については「透明性が感じられない」と疑問を呈した。

ボート女子軽量級ダブルスカル代表の武田大志選手（29）＝帯広市出身＝は「コロナの影響で社会的な立場の弱い人が苦しい思いをしている」と指摘。「大会の理念に立ち返り、人間の多様性に光を当てる大会をつくり上げてほしい」と訴える。

橋本氏は18日の就任会見で、「夏季大会がうくり上げてきた大会をうくり上げてほしい」と訴える。

自転車マウンテンバイク女子東京五輪代表の山本幸奈選手（30）＝十勝管内鹿追町出身＝は「橋本氏が日本自転車競技連盟会長だった時代に支えがあり、アスリートの気持ちをくんでくれる人だと思う」と会長就任を歓迎。橋本氏を選んだ組織委の

医療者に接種本格化

コロナワクチン 来週には全国で

新型コロナウイルスワクチンの先行接種で、医療従事者への先行接種が18日、都道府県以外でも本格化した。同日は北海道、長野、兵庫、岡山、広島各県の医療機関でも始まり、既に接種を開始したのは、共同通信の集計で少なくとも8都県の16病院。他の地域もワクチンが順次到着し、来週には対象の全国100万人超を一気に拡大する。安全性を調べるために実施される、副反応などの情報収集が十分でなければ接種後に影響を与えるおそれがあるとして、厚生労働省は11日に先行接種を見送った東京医療センター（東京）を含め、記者会見に「医療従事者は効果を期待しているとともに、一日も早く全国の皆さんに対面けしたい」と述べた。

接種への不安解消のため、万全な態勢で医療機関も、村山医療センター（東京）では18日、職員向け説明会を開催した。説明会への参加を呼び、接種を受けるかどうかを考えてもらう狙い。

ワクチンは順次到着、18日は関西広域連合管内の医療機関に

新型コロナウイルスワクチン接種の様子を報道陣に公開した（18日、東京都港区で）＝代表撮影

高齢者 かかりつけ医で

札幌市長、接種へ方針

札幌市の秋元克広市長は18日の記者会見で、4月以降に始まる65歳以上の高齢者に対する新型コロナウイルスワクチンの接種について、かかりつけ医への接種を基本とする方針を示した。かかりつけ医がいない人は市が用意する接種会場で受けてもらう。

秋元市長は記者会見で「7～8割の人がかかりつけ医を持っている。その病院で接種を受けてほしい」と述べた。市は医師会の協力を得て、かかりつけ医の接種に対応できる「発熱外来」を設けており、（接種する）医師を分けて対応することが可能か確認すると述べた。（加川浩晃）

厚生労働省に新型コロナウイルス対策を助言する専門家組織「アドバイザリーボード」は18日、新規感染者数について全国で減少傾向が続いているものの、緊急事態宣言が出ている11都府県では「減少している可能性がある」との分析をまとめた。

東京都や大阪府などでは、病床の使用率は特に重症で最も深刻な「ステージ4」の数値を超えた。新規感染者数が以前の水準に戻るには、宣言が出た1月7日時点より北海道は1カ月以上、それ以外の地域でも約1カ月半程度かかるとされた。

緊急事態地域「患者減鈍化も」

厚労省専門家組織が指摘

コープさっぽろ 葬儀事業を拡大

めもるHDと連携協定

コープさっぽろ（札幌）は18日、札幌を中心に16カ所の葬儀施設を運営するめもるホールディングス（HD、恵庭）と葬儀事業で提携すると発表した。コープの直営葬儀場は札幌の2カ所のみで、同社に運営を一部委託し、高齢化で増える組合員の葬儀需要に対応する。また新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、3月に食事やバス送迎の有無などを柔軟に選択できる料金制度に見直す。

同日、札幌市内でめもるHDと東京の葬儀関連企業、むすびすの3者で包括連携協定を結んだ。コープとむすびすは3月、共同出資会社を設立して葬儀事業のシステムを刷新。コールセンター機能を充実させ、利用者が葬儀場や霊きゅう車の手配、日程調整などを円滑にできるようにする。

コープは約180万人の組合員を抱えるが、直営葬儀場での件数は年300件程度にとどまる。自前の施設を増やすには多額の投資が必要なことから、めもるHDを皮切りに道内各地で運営委託する提携先を増やす方針。葬儀の申し込みはコープが受け付け、提携先に委託料を支払う。

また、コロナ禍の影響もあって葬儀参列者の少人数化と低価格化が進んでいるため、最低料金を現在の約20万円から12万円程度に引き下げる。大見英明理事長は調印式で「近親者のみが参列する家族葬の需要を重点的に取り込み、葬儀事業を拡大する」と話した。（伊藤正倫）

エネ活用事業を支援

岩見沢市に1千万円 信金中金が寄付

【岩見沢】信金中央金庫（東京）は17日、温泉から発生するガスや農作物の残りかす（残渣）をエネルギーとして活用する事業を支援するため、市に1千万円を寄付した。

事業は北大や日立製作所（東京）などと共に、産学官で連携して実施。日立が開発中の発電装置を使い、ガスや残渣の燃料としての活用を目指す。寄付は信金中金が創立70周年記念として本年度から始めた地方創生推進事業「SCBふるさと応援団」に、空知信用金庫（岩見沢）が推薦し実現した。

市役所で行われた贈呈式で、信金中金北海道支店の丸山武志支店長は「地産地消のエネルギーシステム確立は地域の持続性確保に不可欠で、応援団事業の趣旨にも合致している」とあいさつ。目録を受けた松野哲市長は「寄付を活用しながら地方創生に引き続き取り組んでいきたい」と述べた。

本年度、寄付を受けるのは全国100自治体（うち道内9自治体）で、空知管内では岩見沢市が唯一。応援団事業は2022年まで実施する。（勝間田翔）

松野市長（左）に目録を

北見市一般会計707億円

新年度予算案 2年ぶり減額

【北見】北見市は18日、2021年度予算案を発表した。一般会計は20年度当初比9・4％減の707億2千万円。市役所新庁舎建設、市中心部での新カーリング場整備など大型事業が終了し、2年ぶりの減額となった。

歳出は、子育て・福祉対策として、通院費助成を未就学児から小学6年までに拡大する事業費に3400万円、留辺蘂自治区での循環バスの試験運行や路線バス経路の見直しに2800万円を計上。地域振興策として、市常呂町にあるカーリング場の改修費に4300万円を盛り込んだ。

歳入は、市税が20年度当初比4・9％減の134億6900万円、地方交付税が同3％減の188億3300万円を見込む。

特別、企業会計を合わせた予算総額は同7・1％減の1142億8千万円。（古市優伍）

室蘭市1.7％減442億円

体育館新築に36億円

【室蘭】室蘭市は18日、2021年度予算案を発表した。一般会計は20年度当初比1・7％減の442億9300万円。人件費の減少などで2年連続減額となった。大型事業は体育館の移転新築に36億4500万円を計上した。

新規事業は水素などの新エネルギーを活用した「脱炭素社会」構築に向け、官民で協議会を設立する事業に1200万円を充てる。新型コロナウイルス収束後も見据えた「稼ぐ観光」推進に170万円を計上し、白鳥大橋の主塔見学ツアーなどに取り組む。

歳入は、市税が20年度当初比1・8％増の131億8800万円。市内にバイオマス発電所が建設され、固定資産税が伸びた。地方交付税は同8・6％減の68億1800万円。普通交付税と臨時財政対策債との合計は同0・2％増の79億1500万円。

特別会計、企業会計を合わせた総額は同3・2％増の857億200万円。市場会計に市公設地方卸売市場水産部門の整備費37億6600万円を盛り込んだ。（横山清貴）

岩見沢市5.4％増527億円

過去最高 新庁舎に51億円

【岩見沢】岩見沢市は18日、2021年度予算案を発表した。一般会計は20年度当初比5・4％増の527億円で過去最高となった。22年1月からの利用開始を目指す新庁舎の建設、新型コロナウイルス感染症対策などを盛り込んだ。

歳出では、新庁舎建設事業に全体の約1割に当たる51億円を計上。市立総合病院の建て替えに向けた基本計画の策定に5900万円を充てる。

新型コロナ対策では、公共施設での抗菌・抗ウイルスコーティング処置のほか、殺菌効果があるとされる微酸性電解水を生成する装置の薬液購入などに3千万円を計上。災害時に開設する避難所の感染症対策や備蓄品整備など防災対策に3100万円を盛った。

歳入は、市税が同5・4％減の80億8700万円、地方交付税は同3・3％増の148億4千万円を見込む。特別会計、企業会計を合わせた予算総額は同3・2％増の953億7200万円となった。（中沢弘一）

雪上そりコースに集まれ！

全長400メートル、畑脇傾斜地に整備

岩教大2年・藤原さん

21日に開く体験イベントに向け、コース整備を進める藤原さん（左）と倉内社長

【岩見沢】雪上のそり競技「ナチュラルトラックリュージュ」の普及に取り組む道教大岩見沢校2年の藤原香夏さん（20）が、市内に専用のコースを造った。コース整備に適した場所を探していたところ、広大な敷地を持つ市内のワイン醸造会社「宝水ワイナリー」が協力。21日には体験イベントを開く予定で、藤原さんは「一人でも多くの人に参加してほしい」と呼び掛けている。（阿部康生）

宝水ワイナリーが協力、21日に体験イベント

コースは全長400メートル、幅は約2メートルで、緩やかなカーブがある。同ワイナリー敷地内にある約9°のワイン畑脇の傾斜地を使って整備した。コースが造れる場所を探していた藤原さんが1月末、知人を通じて倉内武美社長（74）に相談したところ、二つ返事で快諾を得た。今月に入り、スノーモービルや農業用トラクターを所有する倉内社長の協力を得ながら、圧雪などの作業を進めてきた。

「ナチュラルトラックリュージュ」は、山林などの雪の斜面に作った400メートル～1キロのコースで、そりにあおむけに乗ってタイムを競う。発祥地の欧州に遠征して競技に取り組んできた藤原さんは、なじみのない国内での普及を目指してきた。

21日のイベントは午前10時～午後3時。藤原さんが持つ専用のそりを貸し出すが、雪遊び用のそりの持参も可能。藤原さんは「長年の夢が実現できてうれしい。岩見沢の豪雪を生かしたスポーツとして定着できたら」と意気込んでいる。